

沖縄伝統空手世界遠征日記 〈ヨーロッパ編〉

沖縄空手道拳法会静岡県支部剛琉館 佐藤 哲治

第七回 富士山の麓の御殿場で

今回のハンガリー、スロバキア遠征は、一昨年のインド、ムンバイに続く二回目の海外指導でした。

そんな中で特に感じたことは、ラースロー会長を始めとしたヨーロッパ各国の指導者たちは、空手を単なる競技スポーツとしてではなく、本来の武術としての性格をよく理解しながら、生涯にわたって追究していきける技術や稽古体系を求めているという点です。私たちが指導を一言も聞き漏らすまいという稽古に臨む姿勢から、その本気度が伝わってきました。

空手がオリンピック競技に採用されることは大変素晴らしいことです。空手道はますます発展することでしょう。しかし、これによって世界の関心が高まる一方、スポーツ競技としてのイメージが定着し、本来の武術としての側面が薄れて行ってしまうのではないかと。あくまで個人的な感想ですが、日本では比較的那ような傾向が見られるように感じられます。しかし、世界の目は必ずしもそればかりではないでしょう。

現在、空手発祥の地沖縄では、県文化観光スポーツ部に空手振興課を設け、県を挙げて伝統空手をユネスコ世界無形文化遺産に登録するための取り組みを行っています。先人達が遺してくれた神技を継承していくためのこうした取り組みが、一層重要になってくるでしょう。

そんな時、私たちが、否、他の誰であつても、日本一の富士山の麓という日本の中心で、本物の伝統空手を伝える存在になれたとしたら、たとえ微力ではあっても、空手という神技を生み、育んでくれた沖縄、そして師匠への恩返しになるのではないかと思っています。

今回遠くヨーロッパの友人たちと共に稽古をし、親しく語り合う中で、ヨーロッパの指導者たちの、空手というものに対する理解の深さを感じました。若いうちはスポーツとしての空手道を存分に楽しむことが重要だ。しかし、そこで終わりはではない。空手本来の技術にはもともとと先があり、生涯にわたって追究していくべき奥深いもの。それを学びたいからこそ、わざわざ空手発祥の国から伝統技術を伝える剛柔流空手拳法の久場良男範士を招いたのでしよう。

話は変わりますが、今回訪れた中欧二カ国三都市では、御殿場市が作成した富士山眺望

遺産の絵葉書を各国指導者に配布させていた。富士山の麓の美しい街、御殿場から来ました」と紹介すると、皆目を輝かせながら「How wonderful!」と感激してくれました。

すると、後日、師匠と私に、ハンガリーのラースロー会長とスロバキアのラースロー会長（たまたま同姓です）から折り入って話がありました。「空手発祥の地で指導を受けることは、我々にとつてとても大切なことであり、これから沖繩を訪問させていただきたいと思えます。しかし、ヨーロッパから東京まで長いフライトの後、更に沖繩まで乗り継ぐことは、スケジュールや経費の面でも難しい部分があります。もし可能であれば、東京から近い御殿場で指導を受けることはできませんか？」

私は勤め人であり、空手はボランティアで指導しています。よって、受け入れ側としても当然各種のハードルがあるでしょう。しかし、遠くヨーロッパで同じ夢を追いかける友人たちが、日本一の富士山の麓、空手の盛んな我が故郷の御殿場で、発祥の国の伝統技術を教えて欲しいと言っているのです。

その時、沖繩剛柔流のレジエンド久場良男範士十段は、私の方を目で確認しました。私は答えます。「日本一の富士山の麓、御殿場で一緒に稽古しましょう！」



左から、清水女史、久場良男範士、ラースロー会長、筆者

ここで榎野牧水を「ます」と記した、出席者の全員が献花を行った。除幕を終了。このあと会場を市民文化センターに移して短歌会が開かれた。



左から、佐藤哲治、榎野牧水

佐藤、勝俣教諭が表彰 学校運営や部活動で手腕

【御殿場】御殿場西高校の佐藤伸一教

【写真】県私学協会の優秀教員表彰を受けた佐藤伸一（左）と勝俣健教諭（右）。

このほど、県私学協会の優秀教員表彰を受賞した。

この表彰は、同協会に加盟する私立学校の教職員の中から学習指導や学校運営、部活動などで優れた実績を挙げた者へ贈られる。同校の教職

員が受賞するのは二年連続。佐藤教諭は平成四年に赴任し、同五年から十五年度まで学校広報誌の編集責任者を務めたほか、同校創立五十周年の節目となった二十八年度には総務担当として関係行事の企画立案・運営に尽力し、記念式典を成功に導いた。現在は、渉外部長として対外的な活動を一手に引き受けている。

勝俣教諭は、平成九年に非常勤講師として採用され、同一年には正規の教諭となった。この年からホッケー部の顧問を務めており、同十八年と今年の二年連続でインターハイへ導いている。

「任意後見」の活用を

セミナーと無料相談会

成年後見センター・リーガルサポート静岡支部は、「セミナー・無料相談会」を十月一日午後一時半から四時まで沼津駅北口のプラザヴェルデ会議室で行う。同支部は司法書士が正会員となり、高齢者・障害者の権利擁護支援を目的に活動している公益社団法人。同日は、将来の財産管理や死後の様々な不安に備えようという趣旨で開催される。

第一部はセミナーで、一時半から二時五十分まで「任意後見の活用例」を取り上げる。任意後見というものは、「この人なら自分の将来を任せられる」と思った人と契約を結び、あらかじめ自分の将来を託しておく仕組み。第二部は無料相談会で、三時から四時まで司法書士が相談に応じる。予約不要のため当日直接会場へ行く。問い合わせは成年後見センター・リーガルサポート静岡支部（電話〇五四二八九一三九九）。

高齢者ケア考えるセミナー開催
「より良い高齢者ケアを考えるセミナー」は、十月十三日午前十時十五分から